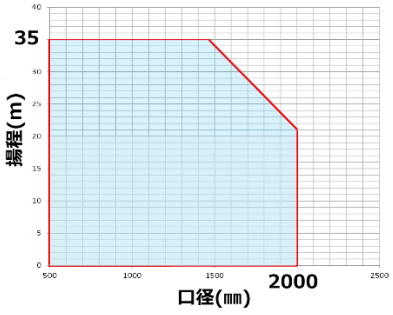
様式 3-5

令和６年度　第４回技術管理委員会（令和６年 12 月 18 日開催）　要旨

審議事項

○実用化技術の事後評価

研究開発課題	雨水ポンプの気中待機運転時間を延長する技術の開発	
研究開発の種類	開発技術の導入を前提とした共同研究	
研究開発者	（株）クボタ	
所管部署	計画調整部　技術開発課	
事後評価期間	令和４年５月～令和５年１０月	
事後評価目的	令和元年度に実用化技術となった、開発技術の導入を前提とした共同研究「雨水ポンプの気中待機運転時間を延長する技術の開発」で承認された技術について、協定書に定める事後評価を実施したものである。	
実用化技術概要	本技術は、これまでの無注水形先行待機雨水ポンプの気中待機運転時間を１時間から３時間に延長させ、軸受保護時間によるポンプ運転の制約を緩和し、これまでと同等の耐久性を備えた雨水ポンプである。主要な開発要素は、水中軸受・軸封装置である。これらは、無注水化及び先行待機運転においても十分な強度と耐久性を有する。	
事後評価目標及び結果	【目標①：開発目標範囲】 開発目標範囲（無注水化実績）に対応可能な無注水形先行待機立軸ポンプとする。  	【結果①】 開発目標範囲の雨水ポンプであることを確認
	【目標②：気中待機運転時間】	【結果②】 達成を確認

	ポンプの排水を含まない気中待機運転時間は、継続で３時間とする。気中待機運転時間は、複数回の始動も可とする。	
	【目標③：価格】 現状機器価格と同等程度とする。	【結果③】 達成を確認
事後評価結果	上記の事後評価目標を達成した。	
審議結果	開発目標を達成していることから、今後も導入することが可能であると評価する。	
備　考		